

関孝和三百年祭記念事業だより V (番外編)

真島 秀行

数学通信第 13 巻第 4 号 (2009 年 2 月) に書きました最終回で記念事業のご報告は最後にしようと考えておりましたが、いくつか関連してご報告すべきことがありますので、番外編として書かせていただきます。なお、日本数学会のウェブページに、情報システム運用委員会作成の関孝和三百年祭記念事業のウェブページを開設していただいております。

<http://mathsoc.jp/meeting/seki2008/>

をご覧ください。今年度まではトップページにボタンがありますが、今年度 (2010 年 3 月) 末でボタンは外し、日本数学会の歴史部分に過去の記録の形で残すこととなります。

1. 関孝和三百年祭記念数学史国際会議のプロシーディング

前回もご案内しましたが、上記の関孝和三百年祭記念事業のウェブページに、関孝和三百年祭記念数学史国際会議の公式ページ <http://i-wasan.jp/seki/> をリンクしてあります。この国際会議では参加費が 2 万円必要でした。今でも申し込まれますと、登録料に対する見返りと支払い方法のお知らせがあり、入金確認次第、大部の予稿集を送ってもらえ、さらに、半年以内には出版されるであろう 3 万円程になる予定のプロシーディングを発行後もらうことができます。

なお、プロシーディングは現在編集最終段階で、もうしばらくすると Springer 社に送られる予定です。

2. 国立科学博物館に数学者の肖像のレリーフ、菊池大麓先生と高木貞治先生の DVD



昨年 11 月 22 日から今年 1 月 12 日まで東京・上野の国立科学博物館で、「**関孝和三百年祭記念** 数学 日本のパイオニアたち」が開催されました。

国立科学博物館の「日本の科学者技術者展シリーズ第 7 回」として開催されましたので、展示会后、数学者の肖像のレリーフ作成されることになっておりました。和算家の正統な肖像はありませんので、近現代の数学者、すなわち、菊池大麓、高木貞治、小平邦彦の三先生のレリーフのみですが完成し、10 月 26 日 (月) 設置、10 月 27 日 (火) から一般公開となる運びとなりました。設置場所は東京・上野の国立科学博物館・地球館中二階です。ミニチラシも配布されます。ぜひ、皆様お立ち寄りくださいますようご案内いたします。

展示会では間に合わなかったのですが、菊池大麓先生と高木貞治先生の紹介映像を編集集中であると IV (最終回) で書きました。それが完了しました。高木貞治先生については昭和 25 年 10 月 10 日 NHK ラジオ第一放送の「朝の訪問 高木貞治」という音源が、NHK サービスセンターに保管されており、正規の手続きを経て、14 分ほどの音源のうち、4 分ほどを

収録させてもらいました。高木貞治先生 50 年祭のための事業と位置づけられ、日本数学会が経費を負担することになりました。菊池大麓先生の紹介 DVD とともに 2 枚組で同時に会員 5 名以上の大学に送付されることになっています。

全事業に対して展示会経費の割合は大きく寄付金だけでは多少赤字でしたが、7 万人近くの方々に見に来ていただいたという貢献を評価していただき不足分は日本数学会から補填していただくことが理事会で決定しております。会員の皆様もご了承ください。ご寄付いただきました方々には本当に有難うございました、上記 DVD をお送りいたします。

3. 関新助孝和の甲府藩における履歴について

関孝和三百年祭記念事業の日本数学会側の実行委員会委員長を仰せつかった手前、事業の中に後に問題となる点がないよう、禍根を残さないように、資料により裏付けを取って知っておく努力をしつつ事業展開を行いました。そうした中で、ある甲府の分限帳を調査する機会を得ました。今後の関孝和の伝記・数学的業績の研究のために以下に活字化してお示ししておきます。仮に、何か問題が発生としたとすれば、その責任は報告者に帰します。その分限帳の「御勘定」の項の中に関新助は以下のように記載されていました。

本国常陸	養父十郎右衛門	実父内山七兵衛
式百五拾俵	生国武蔵	関新助
御役料拾人扶持		辛巳五十七

寛文五乙巳年父十郎右衛門病死 同年跡式被 仰付 御切米高
百三拾俵之内百俵被下之 小十人組御番被 仰付
同七丁未年三人扶持被下之
同十庚戌年 御足米拾俵被下之
延宝八庚申年 小十人組与頭被 仰付 御加増九拾俵被下之 三人扶持者上ル
元禄五壬申年 御賄頭被 仰付
同十四辛巳年 御勘定頭ニ差添可相勤旨被 仰付 御加増五拾俵
御役料拾人扶持被下之

養父十郎右衛門儀 慶安四辛卯年御帳面ニ而被為附之
病死之節者 小十人組御番相勤申候

上の活字化に際し読み易いように空白を入れたりしたこと付言します。上記分限帳に関する解説等は別に他の雑誌等に報告者の論文として執筆させていただく予定です。

(まじま ひでゆき／関孝和三百年祭記念事業実行委員会
／お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科)